



# 3月定例会

## 新年度予算を可決！

一般会計317億4100万円

総会計557億2404万円

(国保・介護・水道・下水道会計等含む)

### 主な議案の内容

本定例会は、市長提出議案として、条例案、平成19年度一般会計及び特別会計補正予算案、20年度予算案など42件、請願1件、議員提出議案3件が提出されました。それぞれ慎重に審議した結果、議案第45号は否決、議請第1号は不採択、その他の議案は原案のとおり可決しました。

### 条例等

鴻巣市防犯のまちづくり推進条例(新)

市民の自主防犯意識の高揚を図るとともに、市・市民・事業者及び土地建物所有者等が連携して犯罪の抑止に取り組み、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現を目指すし、制定するものです。自らの安全は自らで守るとともに地域の安全は地域で守るといふ基本認識の下に、密接な連携を図りながら、協働して犯罪を起させにくい地域環境づくりを推進するものです。

鴻巣市後期高齢者医療に関する条例(新)

75歳以上の高齢者等を対象にした制度で、埼玉県後期高齢者医療広域連合が主体となつて運営します。市が行う保険料の徴収事務について、新たに条例を定めるものです。制度の周知について、介護保険導入時の様な説明会はしません。広報や国保だよりで周



閉鎖された市民プールふきあげ

知し、対象者には保険証を送付します。保険料の滞納が1年を超えると、資格証が発行され、医療機関の窓口では10割負担で医療行為を受け、今後、広域連合が判断します。延滞金は年14・6%、月4・7%です。

鴻巣市国民健康保険条例の一部を改正する条例

今までの基本健康診査から保険者が行う特定健康診査に変わります。1人1000円で75歳以上は無料とします。腹囲、肥満度(BMI)中心の健診です。結果をふまえた生活の改善、運動、禁煙などの支援を受けられます。受診率や目標の達成度が低い場合は、後期高齢者医療制度への国保会計からの負担金が増える罰則があります。

鴻巣市体育施設条例の一部を改正する条例

鴻巣市立市民プールふきあげの項と使用料の表が削除されました。

鴻巣市公園条例の一部を改正する条例

市民プールを閉園するため都市公園条例から、市民プールと使用料が削除されました。



公園で健康づくり

財産の取得について

川里中央土地改良事業により創設された関新田字11番8554番の非農用地、面積1万5060・12m<sup>2</sup>を、6927万6552円(1m<sup>2</sup>4600円、一反455万4000円)で取得し多目的広場を整備して、市民の交流の場とするものです。



吹上駅北口駅前広場

## 平成19年度補正予算

一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ1億2516万円を増額し、補正後の予算総額は339億7638万円となりました。

主な内容として、歳入では高齢者医療制度円滑導入費、障害者自立支援給付費の予算の組替えや、区画整理事業に伴うまちづくり交付金、公債費負担対策に伴う借換債などの追加や、吹上駅北口駅前広場整備、消防費補助金などの減額を行うものです。歳出では、本庁舎、吹上学

童保育室、箕田公民館などの修繕費の追加や児童居宅介護給付、こどもの医療費申請料、チャイルドシート購入費、防犯灯の維持費用など総務・民生費の補助金を追加するもので、今後の財政運営を考慮して財政調整基金や市街地開発基金などの積立金を計上し、防災行政無線設計業務委託や防災マップ作成委託料などを精算するものです。その他、特別会計（5件）と水道会計予算の補正が行われました。

## 平成20年度予算

20年度の一般会計予算は、317億4100万円となり、前年度に比べ、額で5億5600万円、率にして1.7%の減となります。

予算の特徴は、「更なる飛躍と前進」を形づくる予算で「達成型の予算」「大型財源活用型の予算」「企画優先型の予算」です。達成型では、既に事業化している、市内3駅の再開発、土地区画、駅前広場整備や工業団地通線整備、循環バス運行などの事業の達成を図ります。大型財源活用型では、合併特例債、合併補助金、まちづくり交付金を最大限活用します。企画優先型では、事業別予算を実現するため、部課別配分型予算から施策別配分型予算に移行し財務優先でなく企画優先に、縦割りでなく組織横断的な予算にし、総合振興計画と連動した予算にします。その他、特別会計（7件）及び水道事業会計、新たに後期高齢者医療特別会計の各予算を計上しています。

## 賛成討論

市長は、平成20年度の基本姿勢

として、「更なる飛躍と前進の年」と述べ、平成20年度予算を編成されたと説明しております。そして、議会では平成20年度予算を審議してまいりましたが、特に平成20年度に、鴻巣駅東口、北鴻巣駅西口、吹上駅北口の駅前広場整備に一定の区切りを付ける予算編成となっております。一方、合併協議において位置付けたプロジェクトの内、未着手の事業への調査費などが計上されております。

これは、鴻巣地域、吹上地域、川里地域の市民の一体性の確立や各地域の均衡ある発展に配慮されていることが理解できます。さらに、合併協議において、想定できなかった事業、特に小・中学校の耐震対策について、総合的に取り組んでいく姿勢が、議案審議の過程でわかりました。まさに、本市の将来を見据えた予算編成になっております。以上のような理由から、賛成するものであります。

## 反対討論

後期高齢者医療制度 特定健診など

06年10月の自公政権による医療法改悪の一環として導入されました。

前者は、75歳以上の高齢者を国保や健保から追い出し、保険料値上げが、それが嫌な医療の制限かという悪魔の窮状に追い込んでいく制度です。特定健診は根拠の不確かな「腹囲至上主義」をとるものです。今日の医師不足の中で、製薬業界や健康産業のビジネスチャンスとなれば、医療費は増額になりかねません。

鴻巣駅東口再開発事業、三谷橋大間線に30億6500万円が投入されます。空フロア1や第2工区のビルのシネコン撤退など事業への懸念が広がる中、市は地権者として事業に出資しているのに、市民には詳しい情報が提供されていません。市民生活の最先端の施設の民営化・有料化公園やスポーツ施設、公民館などの有料化は、文化の衰退にもつながり、行政責任の投げ捨てです。